



新国立劇場

NEW
NATIONAL
THEATRE
TOKYO

新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ

グルック

オルフェオとエウリディーチェ

Orfeo ed Euridice / Christoph Willibald von Gluck

2025年12月4日(木)～ 12月7日(日)

会場：新国立劇場オペラパレス 2025年10月11日(土) 10:00～前売開始



文部科学省

令和7年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業



2022 年公演より

勅使川原三郎が魅せる美の極み『オルフェオとエウリディーチェ』

世界的舞踊家・勅使川原三郎の演出・振付・美術・衣裳・照明により上演、オペラとダンスが融合した究極の美の世界を現出させた舞台『オルフェオとエウリディーチェ』がオペラパレスへ還ってきます！

勅使川原三郎の美学に貫かれたこの作品は、生と死、光と闇を自在に行き来し、緊張感とダイナミズムに満ちた美しい舞台が称賛の嵐を呼びました。オペラファン、舞踊ファンに留まらず広くアートファンの心を捉えた話題の舞台、待望の再演です。

オルフェオにアルト歌手ミンガルド、ダンスに佐東利穂子、リアブコらが贅沢に出演

『オルフェオとエウリディーチェ』は、亡くなった妻を連れ戻しに詩人オルフェウスが冥界へ降りて行く、ギリシャ神話のオルフェウス伝説によるグルックの代表作。注目のオルフェオ役にはバロック音楽のスペシャリストで、現代最高峰のアルト歌手サラ・ミンガルドが新国立劇場初登場を飾ります。指揮は日本屈指のオペラ指揮者として躍進する園田隆一郎が担当します。

佐東利穂子、アレクサンドル・リアブコの初演メンバーにオフィーリア・ヤング、ハビエル・アラ・サウコが加わる超絶技巧のダンスからも、一瞬たりとも目が離せません。

< 資料のご請求、取材のお問い合わせ >

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当：高梨木綿子

Tel: 03-5352-5733 / Fax: 03-5352-5709 / E-Mail: takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp

息をのむ美しさ オペラとダンスが融合した究極の舞台に釘付け

音楽とダンス、美術、照明すべてが一体となった究極のアート『オルフェオとエウリディーチェ』が、待望の再演です。勅使川原三郎の美学に貫かれたこの舞台は、コロナ禍のもと2022年5月に初演され、開幕するやオペラファン、舞踊ファンにとどまらず広くアートファンの心を捉えました。

「白昼夢のような2時間(産経ニュース)」「エンディングまであっという間(日本経済新聞)」「ニジンスキーもかくやと思わせる絶品(音楽の友)」「至高のクリエイション(ダンスマガジン)」「魔法のような瞬間(Bachtrack)」「『音楽が踊る』稀有な瞬間(DANCE CUBE)」「息をするのも忘れて見入ってしまった(FREUDE)」「精緻なブロンズ像の美を思わせる表情豊かで力強いシーン(Opernglas)」……称賛の声は、「Opera Vision」による映像配信の際にも内外で沸き起こり、初演に立ち会えなかった多くの舞台ファンからも、再演が待ち望まれていました。

圧倒的求心力の舞台と共に、初演の際は、永遠に解けない謎を投げかけるような幕切れも評判を呼びました。究極の美の世界と共に、自らと向き合うかのごとき余韻も、ぜひお楽しみください。



「決して振り返ってはならない——」愛する妻を取り戻しに向かう冥界への旅



『オルフェオとエウリディーチェ』の原作は、亡くなった妻を連れ戻しに詩人オルフェウスが冥界へ降りて行く、ギリシャ神話のオルフェウス伝説。音楽と演劇の融合を目指した“オペラの改革者”グルックが劇的緊張感に満ちたオペラとして完成させ、その演劇的な面白さにより、バロック・オペラの中でも群を抜いて上演頻度の高い人気作となっています。

グルックの音楽には「精霊の踊り」「エウリディーチェを失って」など、耳になじみのある名曲も含まれ、愛と疑念、そして生と死の狭間で揺れ動くオルフェオとエウリディーチェの物語が歌手と合唱、オーケストラ、そして変幻自在なダンスによってダイナミックに綴られます。

アルト歌手の最高峰ミンガルド登場。ダンスは佐東利穂子、リアブコ、ヤング、アラ・サウコ



勅使川原三郎



園田隆一郎

勅使川原三郎は独自のダンス・メソッドと、光・音・空気・身体への美意識、そして独創的な身体表現が高く評価されるダンサー、振付家、演出家。自身の活動拠点カラス・アパラタスでの「アップデート・ダンス」シリーズの上演を続けると共に、パリ・オペラ座バレエ団、フランクフルト・バレエ団、バイエルン州立歌劇場バレエ、オランダ国立バレエなど世界各地の著名カンパニーから振付に招かれ、エディンバラ・フェスティバル、フェニーチェ歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭などではオペラを演出。造形美術家、映像作家としても世界各地に招聘され、インスタレーションや映像作品を発表しています。『オルフェオとエウリディーチェ』はその勅使川原三郎の音楽・身体・美術表現すべてが結晶した舞台。大規模な勅使川原作品が日本で体験できる貴重な機会でもあります。

指揮は特にイタリア・オペラを中核に、日本屈指のオペラ指揮者として活躍する園田隆一郎が担当。新国立劇場でこれまでオペラ鑑賞教室公演の指揮を重ねてきた園田にとって、今回がシーズン公演デビューとなります。

注目のオルフェオ役には現代最高峰のアルト歌手サラ・ミンガルドが新国立劇場初登場。初演ではカウンターテナーを務めた同役がいかに変貌するのか楽しみです。エウリディーチェにはイタリアの新星ベネデッタ・ト



左上より園田隆一郎、勅使川原三郎、佐東利穂子、ベネデッタ・トリー、サラ・ミンガルド、杉山由紀、アレクサンドル・リアブコ、オフィーリア・ヤング、ハビエル・アラ・サウコ

ーレ、アモーレ役には、実力派メゾソプラノの杉山由紀が出演します。

注目のダンスには、初演でも圧倒した佐東利穂子、アレクサンドル・リアブコに加え、勅使川原三郎作品へ出演を重ねるオフィーリア・ヤング、ハビエル・アラ・サウコが出演。勅使川原の信頼厚いダンサー陣が精霊として、また人物の影のような存在となって、全編に渡り舞台をリードしていきます。

<あらすじ>

亡き妻エウリディーチェを何とか生き返らせようと祈りを捧げるオルフェオの前に、愛の神アモーレが登場。冥界へ行くことが許されるが、オルフェオの歌で地獄の番人を慰めること、「この世に連れ戻すまで、決して彼女の顔を見てはならない」と条件を伝える。多くの試練を潜り抜けたオルフェオだが、あと少しで妻を生還させられるというまさにその時に、妻から「なぜ私の顔を見えてくれないのか」とすがられる。神の命令と妻の懇願の狭間で悩むオルフェオは、ついに振り返って妻の顔を見てしまう…。



新国立劇場『オルフェオとエウリディーチェ』トレイラー映像

<https://www.youtube.com/watch?v=CyTFSP8AqT0>

令和7年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業により、『オルフェオとエウリディーチェ』に
小学生～18歳以下の方180名様をご招待します。この絶好の機会に初めてのオペラ鑑賞をぜひご体験ください。

【対象公演日】 2025 年 12 月 6 日(土)14:00 *ご招待人数:計 180 名様

【受付期間】 2025 年 10 月 11 日(土)10:00～12 月 5 日(金)12:00

詳細はこちら https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_030195.html

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】園田隆一郎

東京藝術大学音楽学部指揮科、同大学大学院を修了。2002 年より文化庁在外派遣研修員、野村国際文化財団、五島記念文化財団の奨学生としてローマに留学。06 年、シエナのキジアーナ夏季音楽週間『トスカ』を指揮してデビュー。翌年、藤原歌劇団『ラ・ボエーム』を指揮して日本デビューを果たす。同年夏にはペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』を指揮、その後はトスカ・管弦楽団、カターニアのベッリーニ大劇場、ボローニャ歌劇場、ジェノヴァ歌劇場、トリエステ歌劇場、フランダース・オペラなど国内外の劇場やオーケストラとの共演を重ねている。第 16 回五島記念文化賞オペラ新人賞、16 回齋藤秀雄メモリアル基金賞、令和 4 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。藤沢市民オペラ芸術監督。22 年 4 月よりパシフィックフィルハーモニア東京指揮者。新国立劇場では 18 年、高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『魔笛』、20 年、23 年に高校生のためのオペラ鑑賞教室京都公演『魔笛』、24 年に高校生のためのオペラ鑑賞教室東京公演『トスカ』を指揮している。

SONODA Ryuichiro



【演出・振付・美術・衣裳・照明】勅使川原三郎

TESHIGAWARA Saburo

ダンサー、振付家、演出家。クラシックバレエを学んだ後、1981 年より独自の創作活動を開始。85 年、宮田佳と共にダンスカンパニー KARAS を設立。以降、KARAS と共に世界中の主要なフェスティバルや劇場から招聘され毎年公演を行う。独自のダンスメソッドを基礎に美術と音楽の稀有な才能によって創作を続ける。身体と空間を質的に変化させる唯一無二な身体表現は高い評価と支持を得て、80 年代以降、フランクフルトバレエ団、パリ・オペラ座バレエ団をはじめとしたヨーロッパの主要バレエ団に委嘱振付。オペラでは、エクサン・プロヴァンス音楽祭『アシスとガラテア』、フェニーチェ歌劇場『ディドとエネアス』『時と悟りの勝利』(オラトリオ)を演出、ほかにエディンバラ音楽祭やシャンゼリゼ劇場でもオペラ作品を上演。映像やインスタレーション作品の製作など、芸術表現の新たな可能性を開くアーティストとして創作依頼が多数ある。2013 年に東京・荻窪に活動拠点として劇場カラス・アパラスを開設、年間を通して「アップデートダンス」シリーズとして新作を多数発表している。07 年ベッシー賞、芸術選奨文部科学大臣賞、09 年紫綬褒章、17 年フランス芸術文化勲章オフィシエ、22 年ヴェネツィア・ビエンナーレダンス部門金獅子功労賞他、国内外での受賞多数。

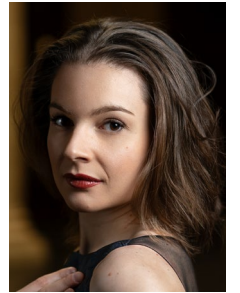


【アーティスト・コラボレーター／ダンス】佐東利穂子**SATO Rihoko**

1995年からKARASワークショップに参加。96年より勅使川原三郎振付の全グループ作品に出演。その高度な技術と芸術性が、身体空間の新たな次元を切り開く表現として世界的評価を得ている。近年では勅使川原のアーティスト・コラボレーターを務め、創作においても欠かすことのできない重要な役割を果たしている。2009年に勅使川原ディレクションによる初のソロ作品『SHE-彼女-』を上演。他に『パフューム』『ハリー』（小説『ソラリス』より）そして活動拠点のカラス・アパラスでのアップデートダンス公演シリーズでも勅使川原が佐東のために創作したソロ作品が多数ある。勅使川原のダンスメソッドを深く理解しながらも独自の身体性から生み出されるダンスと、美しい存在感は特別な存在として支持され、身体空間の新たな次元を切り開く芸術表現として国際的に注目されている。2019年からは待望されていた振付家としての創作活動を開始。自身初の振付作品『IZUMI』（ソロダンス）、イタリアのアテール・バレットへの振付作品『Traces』は欧州で高い評価を得た。今後は自身の創作活動も続いていく。12年第40回レオニード・マシーン賞、18年芸術選奨文部科学大臣賞他、受賞多数。

**【エウリディーチェ】ベネデッタ・トーレ（ソプラノ）****BenedettaTORRE**

ジェノヴァ出身の若手ソプラノ。リッカルド・ムーティ・オペラ・アカデミーに『ファルスタッフ』アリーチェでデビュー。2015年、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場へシーズン開幕公演『シモン・ボッカネグラ』アメリアでデビュー。その後同劇場へ継続的に出演を重ね、23年にはジェノヴァ市から Talento di Genova 賞を授与される。16年以降は国内外の主要な劇場で、『ラ・ボエーム』『ミミ／ムゼッタ』『愛の妙薬』アディーナ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタなどに出演。最近の主な出演に、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『ラ・ボエーム』『ムゼッタ』、ローマ歌劇場『カプレーティとモンテッキ』ジュリエッタ、スカラ座『愛の妙薬』アディーナなどがある。『フィガロの結婚』スザンナ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスビーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『イドメネオ』イリアなどモーツァルトでも高評を得る。24/25 シーズンはカルロ・フェリーチェ歌劇場でニーノ・ロータ作曲『Il cappello di paglia di Firenze』、バーリ・ペトルツェッリ劇場『海賊』メドーラ、パレルモ・マッシモ劇場『ファウスト』マルグリット、ローマ歌劇場『羊飼いの王様』タミリ、今年7月には北京・国家歌劇院で『フィガロの結婚』スザンナに出演した。新国立劇場初登場。

**【オルフェオ】サラ・ミンガルド（アルト）****Sara MINGARDO**

今日数少ない真のアルト歌手のひとり。ヴェネツィアのマルチェッロ音楽院でフランコ・ギッティに師事し、シエナのアカデミア・キジアーナを奨学金を得て修了。国内外の声楽コンクールで優勝し、『秘密の結婚』『チェネントラ』に出演しデビュー。リナルド・アレッシンドリーニ、アイヴァー・ポルトン、リッカルド・シャイー、チョン・ミョンフン、ポール・ダニエル、コリン・デイヴィス、ジョン・エリオット・ガーディナーらの指揮者やベルリン・フィル、ロンドン交響楽団、ボストン交響楽団、フランス国立管弦楽団、コンチェルト・イタリアーノ、モンテヴェルディ合唱団・管弦楽団、レ・タラン・リリクなどと共演。クラウディオ・アバドとの共演は特に多い。ベルゴレージからレスピーギ、バッハ、ベートーヴェン、ブラームス、ドヴォルザーク、マーラーなど、オペラではグルック、モンテヴェルディ、ヘンデル、ヴィヴァルディ、ロッシーニ、ヴェルディ、モーツァルト、ドニゼッティ、ベルリオーズなどをレパートリーとする。グラミー賞を二度受賞したほか、2009年にはイタリア音楽批評家協会よりアッビアーティ賞を受賞。新国立劇場初登場。

**【アモーレ】杉山由紀（メゾソプラノ）****SUGIYAMA Yuki**

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所修了時に最優秀賞・川崎静子賞・所長賞受賞。ウィーン国際音楽ゼミナール受講、選抜者によるコンクールにて第3位、ディプロマ取得。全日本学生音楽コンクール第1位・横浜市民賞・ANA 副賞、日光国際音楽祭声楽コンクール大賞・審査員長賞などを受賞。東京二期会『ジュリオ・チェザレ』タイトルロール、『アルチーナ』ルッジェーロ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『ルル』劇場の衣裳係／ギムナジウムの学生、びわ湖ホール『神々の黄昏』ヴェルグンデ、日生劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、東京・春・音楽祭『ローエングリン』小姓、東京交響楽団『サロメ』ヘロディアスの小姓、信長貴富作曲『山と海猫』花月などに出演。新国立劇場では『子どもと魔法』羊飼いの少年／牝猫／りす、『椿姫』フローラに出演。25/26 シーズンは『オルフェオとエウリディーチェ』アモーレ、『エレクトラ』クリテムネストラの裳裾持ちの女に出演予定。二期会会員。



【ダンス】アレクサンドル・リアブコ**Alexandre RIABKO**

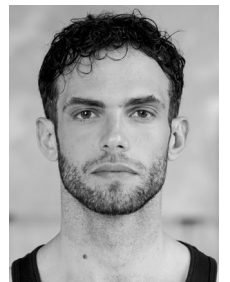
キーウ・バレエ学校、ハンブルク・バレエ学校で学び、96年にハンブルク・バレエ団に入団し、99年にソリストに、01年にプリンシパルに昇格。ジョン・ノイマイヤーと数多くコラボレーションを行う。特にノイマイヤーの『ニジンスキー』は重要なレパートリーとして、カナダ国立バレエ団やオーストラリア・バレエなど世界各地で出演している。21年より勅使川原三郎の『羅生門』『オルフェとエウリディーチェ』『時と悟りの勝利』などに出演。クリストファー・ウィールドン、ナチョ・ドウアト、イリ・キリアン、マルコ・ゲツケ、マッツ・エク、ハンス・ファン・マネン、ウィリアム・フォーサイス、デミス・ボルピなど、クラシックからコンテンポラリーまでバレエの主要な役を幅広く演じ、イタリア、ドイツ、日本、アメリカ、メキシコなど国際的に活躍。世界バレエフェスティバル、エトワール・ガラ、ロベルト・ボッレ & フレンズ・ガラなどでたびたび来日している。新国立劇場へは22年『オルフェオとエウリディーチェ』初演に続く出演となる。

**【ダンス】オフィーリア・ヤング****Ophelia YOUNG**

スイス、オーストリアに拠点を置くダンサー、アーティスト。エッセンの Folkwang 芸術大学を卒業後、8年間に渡りピナ・バウシュ・ヴッパタル舞踊団に所属。2023年にバーゼル劇場バレエに所属し、勅使川原三郎、佐東利穂子の『Metamorphosis』と新作『Like a Human』に出演。その後も勅使川原／佐東とのコラボレーションは続く。自身の振付作品も発表、ピナ・バウシュ財団ダンススクールでの振付のほか、世界各地のダンサー、アーティストと作品を発表している。協働するアーティストには、ティム・エツェルス (Forced Entertainment)、現代アート作家のヴラトカ・ホルヴァット、Lila Zoé-Kraus、ファブリス・マズリア、クリスティアーナ・モルガンティ、センガ・ネングディ、ディミトリス・パイオアヌー、ボビー・ジーン・スミス、Or Schraiber、Tiran Willemse らが挙げられる。

**【ダンス】ハビエル・アラ・サウコ****Javier ARA SAUCO**

スペイン・ウエスカ出身。音楽を学んだ後ダンスを始め、マドリッドのマリア・デ・アピラ舞踊学校で学ぶ。2015年より IT Dansa、ヘッセン州立劇場バレエ、バーゼル劇場バレエなどに出演。21年にバルセロナ演劇学校でダンスの学士号を取得した後はフリーランスのダンサーとして活動。2022年、ウェイン・マクレガーのヴェネツィアビエンナーレ・ダンスカレッジに参加し、勅使川原三郎、佐東利穂子と出会う。ヨーロッパと日本で勅使川原／佐東の『時と悟りの勝利』『ワルツ』『ランボー詩集』『アップデートダンス No.100"素晴らしい日曜日"』などに出演する。2024年にはバーゼル劇場バレエ『Like a Human』で勅使川原三郎の助手を務めた。



新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ
令和7年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業
クリストフ・ヴィリバルト・グルック
オルフェオとエウリディーチェ
Orfeo ed Euridice / Christoph Willibald von Gluck
全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2025年12月4日(木)14:00／6日(土)14:00／7日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:26,400円・A:22,000円・B:15,400円・C:9,900円・D:6,600円・Z:1,650円

【前売開始】2025年10月11日(土)10:00～

※予定上演時間 約2時間(休憩含む)

指揮 園田隆一郎

Conductor SONODA Ryuichiro

演出・振付・美術・衣裳・照明 勅使川原三郎
Production, Choreography,
Set, Costume and Lighting Design TESHIGAWARA Saburo

アーティストック・コラボレーター 佐東利穂子
Artistic Collaborator SATO Rihoko

エウリディーチェ ベネデッタ・トーレ
Euridice BenedettaTORRE

オルフェオ サラ・ミンガルド
Orfeo Sara MINGARDO

アモーレ 杉山由紀
Amore SUGIYAMA Yuki

ダンス 佐東利穂子、アレクサンドル・リアブコ、オフィーリア・ヤング、ハビエル・アラ・サウコ
Dancers SATO Rihoko, Alexandre RIABKO, Ophelia YOUNG, Javier ARA SAUCO

合唱指揮 富平恭平
Chorus Master TOMIHIRA Kyohei

合唱 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督 大野和士
Artistic Director ONO Kazushi

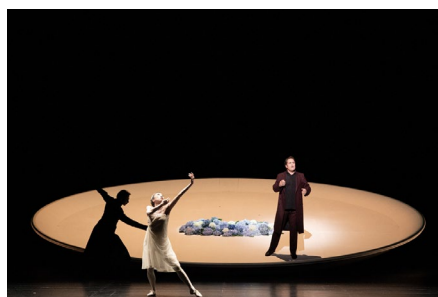
公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/orfeo-ed-euridice/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)
新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 2席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



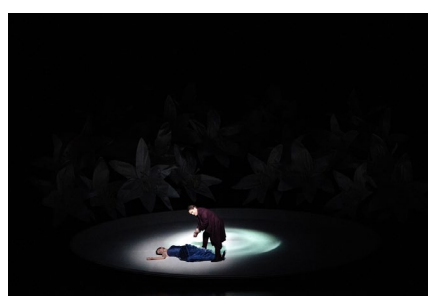
【8】



【9】



【10】



【11】



【12】

新国立劇場『オルフェオとエウリディーチェ』2022 年公演より 撮影：堀田力丸